

## エシカル消費普及事業

美馬市 暮らし・人権課

## 事業内容

本事業は、市民の方にエシカル消費について知ってもらい、また誰かに伝えてもらうことで、市民のエシカル消費に対する機運を醸成し、行動につなげてもらうことを目的に『みんなで学ぼう！エシカル消費～人を「思いやる」消費をはじめませんか～』と題し、講演会を開催した。

日時	令和2年2月16日
予算	722千円
消費者行政強化 交付金活用額	350千円
対象	主に美馬市民
参加人数	170名
宣伝方法	市内小中学校及び認定こども園、 市役所関係機関等にチラシ配布



高校生の発表の様子

## 事業の特徴・ポイント

- ・エシカル消費の専門家を招いた講演会開催に合わせ、市内小中学校での総合学習（環境学習）及び高等学校エシカルクラブでの活動を校外で発表する機会として参画を依頼した。
- ・次年度事業への参考とするため、参加者アンケートを実施した。アンケートには、普段の生活でできることに気づき、実践できる取組を考えるきっかけとなるよう「マイ・エシカル」を選択する項目を設定した。

## 期待される効果

持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた地方公共団体の取組の一つとして、参加者のエシカル消費に対するイメージ（カタカナ言葉で難しい）を払拭するとともに、若い世代の活動を知り、自分たちができる行動（身近で気軽に、できることから実行）という理解を促し、「エシカル消費」に関心を持つ市民を増やす。

## エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

イベントが少なく、比較的参加しやすい時期の日曜日午後での開催とし、また、講演会だけでなく、地域内の児童・生徒の取組の発表も行った。さらに、平日参加が難しい年代（30代～50代）への参加を促すため、小中学校保護者への周知を試みた。しかし、他の市民への周知が不十分となり、目標参加者数に届かなかった。講演会を機に関心を持った市民に対する継続的な取組、より幅広い世代の方に関心を持ってもらうための事業手法の検討が必要。

## 参加者の反応・感想

「エシカル消費」という言葉を初めて聞く参加者もいたようだが、参加者アンケートでは「よく分かった」と回答した方が多く、満足度が高い内容であった。

基調講演に関しては、講師が持つ熱意やメッセージ性の高さが参加者への問題提起や意識啓発につながり、できることから自らが行動を起こさなければならないとの感想が多かった。一方、年少者や関心を持っていない層からは「難しい」と評価されており、こういった層へのアプローチが課題となった。